

交雑種去勢牛(BD)の早期出荷時の産肉性について

後藤 治・中島啓介・大石登志雄・井上尊尋(福岡県農業総合試験場)

Osamu GOTO, Keisuke NAKASHIMA, Toshio OISHI and Takahiro INOUE:
The Effect of Meat Production in the Early Young Crossed

ホルスタイン種去勢牛と黒毛和種去勢牛の肥育技術は一般に広く普及しているが、ホルスタイン種と黒毛和種との交雑去勢牛については、それぞれの純粋種の肥育技術が準用されている。そこで、交雑種去勢牛の肥育技術を確認するために、18カ月齢及び21カ月齢の早期出荷時における産肉性について検討した。

1. 試験方法

- 1) 供試牛 交雑種去勢牛(ホルスタイン雌牛×黒毛和種雄牛)6頭(平均月齢 6.7カ月齢 平均体重282 Kg)
- 2) 試験期間 1989年4月3日~1990年5月28日
- 3) 試験の実施方法 第1図のとおり。

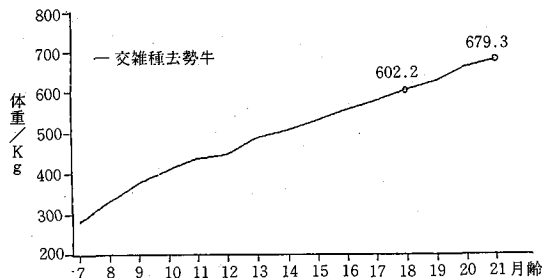
16頭	3頭と殺1	3頭と殺1
↑開始時	18カ月齢時↑	21カ月齢時↑

第1図 試験の実施方法

4) 供試飼料及び管理方法 稲ワラ、市販配合飼料(TDN 71.8%, DCP 8.9%)を不断給餌し、肥育後期(13カ月以降)は大麦圧ベン(皮むき)を市販配合飼料に2割混合して給与した。試験牛は繋留して飼養し、飲水は自由とした。

2. 結果及び考察

1) 増体重 日増体重は、開始時~18カ月齢時0.96 Kg/日、19~21カ月齢時0.93 Kg/日、21カ月齢時までの通算は0.93 Kg/日となった。体重は第2図のように推移し、18カ月齢時602.2 Kg、21カ月齢時679.3 Kgとなった。



第2図 体重の推移

2) 飼料摂取量 開始時~12カ月齢時に粗飼料 107 Kg, 濃厚飼料1,154 Kg, 13~18カ月齢時に粗飼料186 Kg, 濃厚飼料1,229 Kg, 19~21カ月齢時に粗飼料114 Kg, 濃厚飼料703 Kgを摂取した。

3) 飼料要求率(TDN) 開始時~18カ月齢時の通算は6.9, 開始時~21カ月齢時が7.7となった。

4) 枝肉成績 枝肉重量は、21カ月齢時出荷の方が大きく、枝肉歩留(対と殺前体重)も向上した(第1表)。脂肪交雑基準については、出荷月齢による差はなかったが1⁻~2⁺となりホルスタイン種去勢牛と比べてよい成績となった(第2表)。肉色、肉締まり・きめ、脂肪の色沢と質等級についても同程度の成績となった。ここで、肉質等級が「2」とされた試験牛は、すべて肉締まり・きめ等級で格落ちされていたので、交雑種去勢牛を早期出荷するには、肉締まり等級を改善する肥育技術を検討する必要があると考えられた。

第1表 出荷時月齢と枝肉成績

区 分	18カ月齢時	21カ月齢時
枝 肉 重 量 (Kg)	338.3±20.1	395.7±14.4
枝 肉 歩 留 (%)	58.6± 1.0	60.9± 1.2
ロース芯面積 (cm ²)	41.0± 5.2	44.3± 2.1
バラの厚さ (cm)	5.4± 0.9	6.2± 0.3
背脂肪の厚さ (cm)	2.1± 0.4	2.9± 0.4

注) 枝肉歩留: 対と前体重

第2表 出荷時月齢と肉質等級

区 分	18カ月齢時出荷				21カ月齢時出荷			
	1	2	3	平均	4	5	6	平均
脂肪交雑等級	3	4	4	3.7	3	5	3	3.7
脂肪交雑基準	1 ⁻	2 ⁻	1 ⁺		1 ⁻	2 ⁺	1 ⁻	
肉 色 等 級	3	4	3	3.3	3	5	3	3.7
肉締まり・きめ等級	2	4	3	3.0	2	4	2	2.7
脂肪の色沢と質等級	4	4	4	4.0	4	4	4	4.0
肉 質 等 級	2	4	3		2	4	2	